

## 太平洋地域の地震観測で 国際ワークショップ—2002年10月15~18日—



防災研究情報センター 国際地震観測管理室長 井上 公

防災科学技術研究所が日本列島全体を稠密に覆う地震観測網（Hi-net、F-net、K-NET、KiK-NET）を運用していることは皆様すでによくご存知と思いますが、実は私達は日本国内だけでなく、アジア・太平洋地域でも各国と協力して地震観測を行っています。

現在行っている観測は、元々は2年前まで実施されていた地球深部構造の解明を目的とした「全地球ダイナミクス計画」で、防災科研、気象研、地質調査所（当時）、建築研、および大学が共同して行っていたものですが、計画の終了後、広い意味の地震防災・地震調査研究を目的とした観測網として、防災科研がその運用を引き継ぎました。

現在多くの国々と協力を行っていますが、今回はインドネシア、フィジー、トンガ、ニウエ、クック、オーストラリアの太平洋地域の国々の人々をつくばへ招聘して、プロジェクトの成果、観測の状況、各国の地震観測網の現状

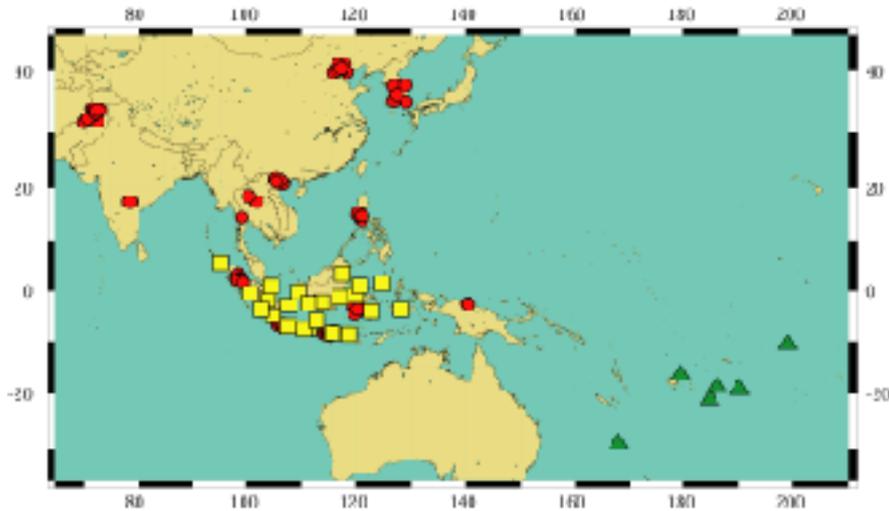
等を報告・議論して相互理解を深め、将来に向けて問題の解決を図ることを目的としたワークショップを開催しました。参加者は海外から12名、日本から15名の合計27名でした。

2日間の講演会では日本側によるプロジェクトの概要、広帯域地震計、観測の問題点、データ管理についての報告、外国からの参加者による各国の地震観測の現状、各組織の業務、島の自然・文化・社会等の紹介、そして日本人研究者による「全地球ダイナミクス計画」の成果、防災科研の地震観測網、リアルタイム地震情報システム、広帯域地震計による火山研究等の発表、そしてHi-net、F-net、K-NET、KiK-NETの見学等が行われました。

講演会の最後に、データの品質向上のための方策と今後の協力の具体的な内容が議論されました。特に要望が大きかったのが、現地機関の地震火山監視業務への当プロジェクトの貢献です。



ワークショップ参加者



防災科研が海外の機関と協力してデータを収集・交換している地震観測点。今回のワークショップには黄色および緑色の観測点の国々の協力者を招聘しました。

現在の我々の観測網は過去に行われた純粹科学研究のために、専ら日本側がデータを利用することを念頭に設計されたものであり、現地機関がその場で記録を簡単に利用することができません。そこで地震波形をリアルタイムでモニターして解析するための機器とソフトウェア、およびそれらの使用方法のトレーニングの提供が強く要望されました。また当プロジェクトが、地震火山活動監視に重要な隣国同士でのリアルタイムデータ交換の推進を目的としたコミュニケーションの場となることも同時に要望されました。

ワークショップ後半の2日間では、東京の気象庁本庁での地震火山監視業

務および気象海洋関係の業務の見学、神奈川県立温泉地学研究所の見学および箱根火山の巡検を行いました。

今回各国から招聘した人々には5年以上前から地震観測に協力してもらっていますが、殆どは今回が初めての日本訪問でした。アジア太平洋地域における地震の観測とデータ交換を防災科研の長期的な国際協力プロジェクトとして継続・発展させていくために、今回のワークショップで海外の観測機関の人々とお互いの研究・業務の現場をとりまく状況を報告・議論し、共通の問題意識をもつことができたことは非常に大きな成果でした。



講演会



箱根の巡検